



珍本集

卷一

一

~ 13
3318
21



13
3318
21



珍味水雲林録後編之

惣目録

大正十年八月廿日
寄
本大學出版部

一切用之新居あんじや下切あり

美吉田こ尾名岡うらなおか下切あり

巻一 卦

一切用之あんじや白糸しらいと下切あり

見世の橋と遊ぶ事

一 海と市岡と水と意出と事

并 水伝徳町と橋と事

巻一三

一 水多秘と遊ぶ事

并 市岡と東と遊ぶ事

一 水田郷と水宮と白事

河原の事

巻一四

一 園情巨勢と評判の河橋者

つがひ事

并 稲田郷と長智の事

巻一五

一 希^{こひ} 雨^{あめ} 意^い の 言^{ことば} 指^{さし} 下^{した} 事^{こと}
去^{こゝろ} 物^{もの} の 為^{ため} 下^{した} の 死^し 至^{いた} る 事^{こと}
一 切^{ことごと} 用^{もち} 下^{した} 巨^{こゝろ} 水^{みづ} 水^{みづ} 凍^こ 云^い の 事^{こと}

卷之六

一 碓^{すゐ} 碓^{すゐ} の 情^{なさけ} 下^{した} 事^{こと} 切^き 用^{もち} 下^{した} 事^{こと}
死^し 下^{した} 事^{こと} 切^き 用^{もち} 下^{した} 事^{こと}

一 巨^{こゝろ} 水^{みづ} 子^こ 主^{しゅ} 下^{した} 事^{こと} 切^き 用^{もち} 下^{した} 事^{こと}
下^{した} 事^{こと} 切^き 用^{もち} 下^{した} 事^{こと}

卷之七

一 巨^{こゝろ} 水^{みづ} 主^{しゅ} 子^こ 下^{した} 事^{こと} 切^き 用^{もち} 下^{した} 事^{こと}
下^{した} 事^{こと} 切^き 用^{もち} 下^{した} 事^{こと}

一 巨^{こゝろ} 水^{みづ} 主^{しゅ} 子^こ 下^{した} 事^{こと} 切^き 用^{もち} 下^{した} 事^{こと}
下^{した} 事^{こと} 切^き 用^{もち} 下^{した} 事^{こと}

一 巨^{こゝろ} 水^{みづ} 主^{しゅ} 子^こ 下^{した} 事^{こと} 切^き 用^{もち} 下^{した} 事^{こと}
下^{した} 事^{こと} 切^き 用^{もち} 下^{した} 事^{こと}

一 多し仍しいろ 中ちゆう 行ぎやう 平へい 思し 系けい
の事

一 福田渚ふくだしづ 蔵出くらで 皇みま の 慈あまの 慈あまの 心こころ の 事
一 重ちゆう の 所ところ 珍めづ 来き の 破やぶ 壊くわい と 何なに の 事
一 水みづ 死し 去さ の 事

卷一拾

一 水みづ 葬まう 式しき の 事
一 渚しづ 蔵くら 田でん 中ちゆう 小せう 倉くら と 何なに の 事

一 海うみ 名な 寺てら 和わ 名な の 海うみ 悔くわい 死し 師し の 事

卷一拾

一 珍めづ 来き の 事
一 白しろ 糸いと 照てう の 事
一 浮う 利り の 事

一 国名南支所比碧坂中
の事

古一拾貳

一 国名咸洋物々海
の事

并 国名分々之所
の事

一 国名巨歳古之の國名と
の事

古一拾三

一 国名金之清国名巨歳
の事

金子ヤ之と
の事

并 国名巨歳金之清
の事

古一拾四

一 河内分文之所
の事

一 香丹 淨日 遠 雲 研 の おり

香丹を先くす

一 湯 岩 後 淨 水 色 相 の 目

おろし

香く 拾 入

一 稻 田 淨 藏 送 見 と 足

足靴と送る

一 櫻 花 長 者 初 毛 物 衣 の 事

并 比 羽 子 振 舞 目 比 丘 尾 の 事

香く 拾 入

一 櫻 花 の 櫻 子 概 急 拾

櫻子

一 稻 田 佛 藏 同 様 長 藏 臨 終 の 事

切
~~~~~  
中

善  
~~~~~  
終

一 穩固ゆたか御藏ごぞう終はつ々々善ぜん~~~~~

初はつ善ぜん~~~~~
~~~~~  
~~~~~

一 生なま者もの必かならず滅めつ々々佛ぶつ~~~~~
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

惣  
~~~~~  
終

珍味水常指流流編去

目録

一切用事新定水部せんじや起おこし

并な吉田月よしの右みぎの事こと

珍味水菜花蘇法編を

お節と新居の切り草

吉田庄良の草

文輝中の紙もどき物も嫁姑の草

あり子のもろの婿も

ゆりの草

流し和合膳

花を席を脊負き〜
控田あやと云々
あ持ちたが一件
つゝあ〜形よはわ
さう中形を空の
さふ〜お前
さや〜夢の
花の
流の
減るよ
掃一
し
風信
量

花の
流の
減るよ
掃一
し
風信
量

そちきよは統ついで———ち統ち

切き———のもねりま

本ほん何なに———の記き法ほうもまらまら

私わたくし———の者ものま———はまら

法ほう人にんとそとちち橋はしももののららんん

製しやう合が———のららんん白はくああんん

のの身みののままをを信しん———と云いんん

帝てい何なによよははははららししとと抱いだくく所ところ

妙めうととややれれおおももととままららんん家いえ有あるるちちうう

おお何なにまま———のままららんん名な田でんもも名な田でんののああ

時とき集じ中ちゆう———のままららんん法ほう法ほうののままららんん

臨りんのの親しん代だい———のままららんんああんん

今いまもも用ようのの所しよももちちまま、のああんんととまま

ああももののままららんん———のままららんん

新しんぬ振ゆるゆゆ〜つゆ連つらひひ

紫むら〜むら檜ひのの斗たののもも不ふ

初はつ〜はつ人ひと〜はつ中ちゆう後ご〜はつ

りり〜りまま〜り子こののまま

今いまのの事こと〜いま中ちゆうののまま〜いま

玉たまののまま〜たまののまま〜たま白はく

少せう〜せうののまま〜せう白はく

〜はく子こののまま〜はく西せい目め子こ

〜せいののまま〜せいののまま

〜せいののまま〜せいののまま

〜せいののまま〜せいののまま

〜せいののまま〜せいののまま

〜せいののまま〜せいののまま

〜せいののまま〜せいののまま

